

巻頭言「オオルリシジミと県の認定保護回復事業」

長野県環境部自然保護課 窪田 達央

長野県では、平成13～16年度に長野県版レッドデータブックを作成し、野生動植物の現状を明らかにするとともに、その希少な動植物の保護及び回復を図る仕組みとして、平成15年度に長野県希少野生動植物保護条例を施行いたしました。

条例では、指定希少野生動植物に指定した種の捕獲を規制しています。オオルリシジミの場合、平成17年度にこの指定がされ、届出無く捕獲した場合、30万円以下の罰金が科せられます。

この条例で特筆したいのは、単に規制をするだけでなく、その保護と回復を図る「保護回復事業」という仕組みが盛り込まれていることです。

まず、個体数の維持・回復を図ることが必要とされる指定希少野生動植物を対象として、県が、個体の繁殖の促進、生息地等の保全、回復及び再生に関する保護回復事業計画を定めます。

そして、団体やNPO等、幅広い主体の参画により、この計画に沿って実施される事業を県が認定＝「認定保護回復事業」することで、その実施を期待するものです。

条例制定後、ヤシャイノデ、イヌワシ、タデスミレと計画の策定が進み、平成19年度に、無脊椎動物では初めてとなるオオルリシジミの保護回復事業計画が定められました。

このオオルリシジミ保護回復事業計画により、「信州大学農学部」（安曇野市）、「北御牧のオオルリシジミを守る会」（東御市）、「安曇野オオルリシジミ保護対策会議」（安曇野市）の3つの団体が認定を受けて保護回復事業に取り組んでいます。

「北御牧オオルリシジミを守る会」では、地元の北御牧小学校が保護活動に参加されており、毎年理科クラブの児童がオオルリシジミの保護に取り組んでいます。守る会では学校の授業においてオオルリシジミの生態や保護の必要性を説明し、総合学習、郷土学習としても役立っています。

また、シチズンファインテックミヨタ様から、事業所構内における食草の植栽や、野焼き・草刈等の環境整備、成虫の発生期の『親子観察会』の会場提供を頂くなど、教育機関や地元企業等との連携がなされ順調に保護活動が進んでいます。

安曇野市でも信州大学による野焼きの調査・検証が進められ、今年、自然復活の個体の報告がなされており嬉しい限りです。

「北信濃の里山を保全活用する会」におかれましては、さる平成23年7月23日に、オオルリシジミに関する団体としては4団体目、北信管内においては他の種を含めて初となる認定を受けられ、保護活動に取り組んでいらっしゃいます。新たに発見された生息地を守る活動にいち早く取り組んでいただき、この場をお借りしまして御礼申し上げます。

県としましても、生物多様性保全活動協働事業として立入禁止柵の設置を支援させていただきましたが、違法捕獲防止や環境整備等の実施は、地域に根差した皆様方の活動が何よりも重要です。

北信濃は、放蝶した個体ではなく、本州唯一の自生地と考えられており、他の地域には無い配慮も求められています。

いろいろと課題もありますが、豊かな自然と、その象徴であるオオルリシジミが、自分の子供が大人になった時に、またその子供を連れて見せにすることが出来たらいいなと思います。

今後の会のますますのご活躍をご期待ご祈念申し上げます。



クララにとまるオオルリシジミ♀

※参考までに、これまでの長野県が策定した保護回復計画と認定を受けた事業は以下のとおりです。

●保護回復事業計画の策定状況

- ・平成18年度：ヤシャイノデ（維管束植物）、イヌワシ（脊椎動物）（H19.04.21）
- ・平成19年度：タデスミレ（維管束植物）、オオルリシジミ（無脊椎動物）（H20.02.25）
- ・平成20年度：ホテイアツモリ（維管束植物）、ライチョウ（脊椎動物）（H21.03.31）
- ・平成21年度：ミヤマシロチョウ（無脊椎動物）（H22.03.31）
- ・平成22年度：ササユリ（維管束植物）（H23.03.31）
- ・平成23年度：フサヒゲルリカミキリ（無脊椎動物）（策定中）

●長野県の認定を受けた保護回復事業

- | | |
|-------------------------------|-----------|
| ①ヤシャイノデ保護活動（ヤシャイノデ保全の会） | 平成20年6月認定 |
| ②タデスミレ保護活動（民間事業者） | 平成20年7月認定 |
| ③オオルリシジミ調査研究（信州大学農学部） | 平成20年7月認定 |
| ④オオルリシジミ保護活動（北御牧のオオルリシジミを守る会） | 平成21年4月認定 |
| ⑤ 同上（安曇野オオルリシジミ保護対策会議） | 平成21年5月認定 |
| ⑥ホテイアツモリ保護活動（富士見町アツモリソウ再生会議） | 平成22年3月認定 |
| ⑦ミヤマシロチョウ保護活動（茅野ミヤマシロチョウの会） | 平成22年6月認定 |
| ⑧ミヤマシロチョウ保護活動（浅間山系ミヤマシロチョウの会） | 平成22年8月認定 |
| ⑨オオルリシジミ保護活動（北信濃の里山を保全活用する会） | 平成23年7月認定 |

近頃の活動など・・・

事務局

・「北信濃オオルリシジミ保護回復事業」について

前記「巻頭言」・長野県自然保護課の窪田さんからの寄稿のとおり、当会では「北信濃オオルリシジミ保護回復事業」を計画し、長野県の認定を受けました。

当保護回復事業は、

- ① 食草の増殖と環境整備（クララの育苗と植栽による増殖、灌木の伐採による草原環境の維持）
- ② 違法採取の防止活動
- ③ 累代飼育による系統維持
- ④ 科学的調査研究（年次発生量の調査、天敵による死亡要因の解明、累代飼育個体の形質調査）

について、その効果を検討しながら活動を進めていきます。

事業期間は平成23年7月から平成28年3月までですが、オオルリシジミ保護回復の経過を観察しながら、その後は必要に応じて継続します。また、安曇野オオルリシジミ保護対策会議、東御市北御牧オオルリシジミを守る会、信州大学、日本チョウ類保全協会等と連携しながら保護回復のあり方、進め方を検討します。

なお、保護回復の環境整備に関係する事業について、県が地域づくりを支援する「地域発・元気づくり支援金」に応募し、平成23年度事業第2次分として選定されました。交付予定の支援金は草原環境維持のための機械・道具類（刈り払い機器、チェーンソーなど）の購入に充てる予定です。

今秋、オオルリシジミ生息地の灌木伐採や刈り払い作業などを計画しますので、ご了解のうえ、会員の方々のご協力をお願いします。

・「北信濃オオルリシジミ保護回復事業」認定式、保護区域設営作業について

当時行が県から正式に保護回復事業として認定されたのを受け、7月23日（土）、オオルリシジミ生息地において、その認定式が行われ、市村県自然保護課長から井田会長へ認定通知の交付が行われました。その後のあいさつで、市村自然保護課長は、県が進めるオオルリシジミ等の希少野生動植物の保護について話され、井田会長が当会の活動方針（北信濃里山通信vol.1参照）を述べました。また、飯山市教育委員会の土屋教育長からは保護活動にあたっての激励の言葉をいただきました。

認定式のあとは、生息地への立ち入り制限を示すため、上下の入り口2箇所に県の生物多様性保全活動協働事

業により供与されたロープの設置作業を参加者全員で行い、当地もようやく保護区域らしくなってきました。

その後、オオルリシジミ天敵・メアカタマゴバチ調査のための黄色粘着トラップの設置を行いながら、オオルリシジミ幼虫の探索を行いました。先週まではオオルリシジミ幼虫が見られたようですが、当日はルリシジミと思いき幼虫が見られたにとどまりました・・・。クララにはウスベニオオノメイガも多く見られ、対処が必要なものにも感じます。

最後に飯山名物の「きのこ汁」をみんなにいただき、当日の日程を終了しました・・・(ごちそうさまでした)。

なお、当日、認定式と作業に参加された「佐々木あや子さん」から以下のとおり感想文をいただきました。

北信濃飯山の美しい里山に絶滅危惧種のオオルリシジミが生息していたことに大きな驚きと喜びと、そして絶滅させてはならないという市民としての責任も感じます。

今回、この活動を通して、井田先生はじめ熱心に頑張っておられる人達がいらっしゃることに、保護区に認定されたことを大変うれしく思いました。ロープ張りにスキー場を登るのは少々きついものでしたが、素晴らしい景色と、思いがけず初めてヨタカの姿とヒナまでも見ることが出来て、参加したごほうびをいただいた気がしました。作業終了後にはおいしい豚汁もいただき、作っていただいた方に感謝です。

2年前に夫の定年を機に夫の希望で40年ぶりに飯山市民となった私ですが、高社山を望む里山に住み、裏山が近いせいかたくさんの珍しい蝶や蛭やその他の昆虫、きれいな鳥や鳴き声、いろいろな植物と出会って感激しています。出会いたくない爬虫類や毎年大発生するカメムシにはへきえきしますが、深い雪もすべて含めて飯山の里山と理解しています。

我が家の周辺の畑はほとんど耕作されておらず荒地となり、一面ススキとクズの藪です。裏山の杉は手入れがされず、暗い森となっています。これらがかつての風景に戻れたらどんなに素敵なことかと想像します。近所や職場の人に「なんでこんな所に引っ越して来たの?」と言われると悲しくなります。飯山に住むには諸々の難題があることも承知の上で、私の思いは、まずは住んでいる人に素晴らしい飯山に気づいてほしいのです。

井田先生がおっしゃる様に、飯山を熱く語る人がひとりでも多くなることを願ってやみません。

ありがとうございます。会員の方々からの熱い想いは事務局・関係者の励みになります・・・(事務局)。



オオルリシジミ生息地ロープ設置作業後、参加者の集合写真(おつかれさまでした・・・)

お知らせなど

事務局

・黒岩山環境整備「ワーキングホリデー」の開催について

黒岩山保全協議会では、6月から11月まで毎月1回、天然記念物・黒岩山のギフチョウ・ヒメギフチョウの生息地保全のため、灌木伐採などの里山環境整備を行っています。次回9月は25日（日）に作業を予定していますが、都会の方々から参加を募り、協働作業を行うワーキングホリデーが企画されています。環境整備は午前中、ノコギリ、ナタ、カマを使って間伐や下草刈りなどを行いますが、午後は黒岩山ブナ林の散策と自然観察会などを行う予定です。参加を希望される方は、9月21日（水）までに飯山市公民館事務局（TEL：0269-62-3342）にお問い合わせのうえ、お申し込みください。

集合日時・場所：9月25日（日）8時30分・飯山市外様旧信濃平スキー場駐車場（県道飯山・新井線沿い）
場所がわからない方は、8時00分に飯山市公民館駐車場にお越しください。

持ち物：昼食、雨具、軍手など。作業できる服装でお越しください。参加費として保険代実費をいただきます。

※ 8月26日（日）に行った黒岩山環境整備の様子です。



土手際の道路に張り出した木々を伐採、スッキリしました。伐採した木々の樹幹は運んで保管し、薪ストーブへの利用など希望する方に斡旋販売します。また、炭焼きの試作も行いました。

編集後記

事務局

「北信濃オオルリシジミ保護回復事業」の認定、「地域発・元気づくり支援金」の選定を受け、気合を入れて保全活動を進めていかなければならないところです。活動推進にあたり会員や地元関係の方々からのご理解とご協力は心強いところですが、幅広く自然に関心を持つ方々と飯山の里山の将来について熱く語り合いたいものです。

また、本年もオオルリシジミやクララについての調査研究活動を行ってきましたが、随時会報でもその結果を紹介していきたいと思えます。

会へのご意見、ご要望などをお待ちしております。

発行者：北信濃の里山を保全活用する会 会長 井田秀行
事務局：〒389-2253 飯山市大字飯山1436-1
飯山市公民館内
TEL：0269-62-3342 FAX：0269-62-5940
E-mail：kouminkan@city.iiyama.nagano.jp
編集者・事務局長：福本匡志